

夢のような現実の話

# カウント・ベイシー・オーケストラが 津山にやってくる!!



2012年 夏～秋の催し物のご案内 (P5~6)

ワイドインフォメーション (P7)

エリアインフォメーション (P8)

7月～9月 イベントカレンダー (P9~10)

昨年(2011年)の第8回津山国際総合音楽祭での  
エディ・コメス・トリオ公演の様子

## ■カウント・ベイシー・オーケストラがやってくる

「カウント・ベイシー」…ジャズファンはもちろんのこと、音楽通の皆さんなら一度は耳にしたことのある名前ではないでしょうか。

カウント・ベイシー・オーケストラ(以下、楽団)は、世界の2大ビッグ・バンドとして、デューク・エリントン楽団と並んで賞賛されています。生みの親であるカウント・ベイシーは、1904年ニュージャージーに生まれ、1935年に楽団を旗揚げ、以来、メンバーチェンジを繰り返し、同時に数多くのスターミュージシャンを世に送り出しました。楽団を率いて世界中で演奏活動をしたカウント・ベイシーは1984年に死去。その後も強力なバンド・リーダーが楽団を引き継ぎ、活動を続けています。現在のバンド・リーダー(コンダクター)はダグ・ミラー。

エリントン楽団の演奏がクラシックの要素も取り入れた芸術性の濃いものだったのに対し、ベイシー楽団の演奏は抜群のスイング感、ドライブ感が特徴です。つまり「スイング・ジャズの王道」と絶賛されています。楽団の名盤は「アトミック・ベイシー」「エイプリル・イン・パリ」「ストレート・アヘッド」「ベイシー・イン・ロンドン」など。

## ■夢のような公演の実現

今回、来日するカウント・ベイシー・オーケストラの日本公演は7カ所9公演。東京ブルーノート(3公演)、軽井沢、名古屋、京都、大阪、津山、下関。

どうですか!!名だたる大都市をことごとく差し置いて「津山公演」が実現したのです。本当にこれは夢のような現実の話なのです。

では、何故このような企画が実現したのでしょうか。これには少々「深い話」があります。

津山市の中でも勝北地方では、旧勝北町の時代から町全体で創作ミュージカルに取り組んできました。その母体となるのが津山《風と光と心の劇場》実行委員会です。そのメンバーの中でも特にジャズ愛好家を中心となり組織されたのが「風..」(かぜドットドット)(歴舎一善代表)。ジャズをはじめとするすばらしい音楽を自分たちだけで楽しむのではなく、多くの人々が共有できる場を提供して皆で楽しみたい。そうした思いで地元の楽器店と二人三脚で初開催したのが2003年7月、日本のジャズトランペットの第一人者・日野皓正公演。これを皮切りに一流ミュージシャンを低価格で招聘することにこだわり、企画に妥協することなく交渉を重ね、以下の公演を次々と実現させてきました。

- 2005年11月 ニコラス・ペイトン・カルテット
- 2006年7月 ビリー・ボーン楽団 ※
- 2006年11月 スティーブ・キューン・トリオ  
カーリング・グローブ
- 2007年8月 エリック・アレキサンダー  
グラン・スチュアート
- 2008年7月 日野皓正 クインテット(2回目)